

夢想歌

「うたわれるもの」のOP

こども ころ ゆめ いろあ らくが
子供の頃の夢は 色褪せない落書きで
おも か すべ えが みらい
思うまま書き滑らせて 描く未来へとつながる

す わた そら は あお
澄み渡る空 果てしないほど青く
むじゃき こころ み ひ
無邪気な心に 充たされ魅かれてく

じゆう と はね て い
やがて自由に飛びまわれる 翼を手に入れて
むく ひとみ もと そら む い
無垢な瞳は求めてく 空の向こうへ 行きたいな

と ど ねが ひと かな
止め処ない願いから 一つだけ叶うのなら
だれ ゆず ゆめ つか おも
誰にも譲りたくはない 夢を掴みたいと思うよ

こども ころ ゆめ いろあ らくが
子供の頃の夢は 色褪せない落書きで
か つづ ねが みらい
いつまでも描き続けられた 願う未来へとつながる

かね な おと とお き
鐘が鳴る音 遠くから聞こえてくる
すなお こころ とど ひび
素直な心に 届いては響いてる

ひか なないろ か こ えが
光りは 七色に変わって 弧を描いてゆく
むく ひとみ もと にじ む い
無垢な瞳は求めてく 虹の向こうへ 行きたいな

と ど ねが わす
止め処なく 願うほど 忘れないでいたいこと
ささ ひと ゆめ み
支えてくれる人がいて 夢を見ることができるから

こども ころ ゆめ いろあ らくが
子供の頃の夢は 色褪せない落書きで
おも か すべ えが みらい
思うまま書き滑らせて 描く未来へとつながる

じゆう と はね て い
やがて自由に飛びまわれる 翼を手に入れて
むく ひとみ もと そら む い
無垢な瞳は求めてく 空の向こうへ 行きたいな

とど ねが ひと かな
止め処ない願いから 一つだけ叶うのなら
だれ ゆず
誰にも譲りたくはない 夢を掴みたいと思うよ

とど ねが わす
止め処なく願うほど 忘れないでいたいこと
ささ ひと ゆめ み
支えてくれる人がいて 夢を見ることができるから

こども ころ ゆめ いろ あ らくが
子供の頃の夢は 色褪せない落書きで
おも か すべ えが みらい
思うまま書き滑らせて 描く未来へとつながる

こどものころのゆめは いろあせないらくがきで
子供 頃 夢 色褪 落書

おも うまかきすべらせて えがくみらいへとつながる
思 書 滑 描 未来

すみわたるそらはてしないほどあおく
澄 渡 空 果 青

むじゃきなこころに みたされひかれてく
無邪気 心 充 魅

やがてじゅうにとびまわれる はねをてにいれて
自由 飛 翼 手 入

むくなひとみはもとめてく そらのむこうへ いきたいな
無垢 瞳 求 空 向 行

とめどないねがいから ひとつだけかなうのなら
止 処 願 一 叶

だれにもゆずりたくはない ゆめをつかみたいとおもうよ
誰 譲 夢 掴 思

こどものころのゆめは いろあせないらくがきで
子供 頃 夢 色褪 落書

いつまでもかきつづけられた ねがうみらいへとつながる
描 続 願 未来

かねがなるおととおくから きこえてくる
鐘 鳴 音 遠 聞

すなおなこころに とどいてはひびいてる
素直 心 届 響

ひかりは なないろにかわって こをえがいてゆく
光 七色 変 弧 描

むくなひとみはもとめてく にじのむこうへ いきたいな
無垢 瞳 求 虹 向 行

とめどなくねがうほど わすれないでいたいこと
止 処 願 忘

ささえてくれるひとがいて ゆめをみることができるから
支 人 夢 見

こどものころのゆめは いろあせないらくがきで
子供 頃 夢 色褪 落書

おも うまかきすべらせて えがくみらいへとつながる
思 書 滑 描 未来

やがてじゅうにとびまわれる はねをてにいれて
自由 飛 翼 手 入

むくなひとみはもとめてく そらのむこうへ いきたいな
無垢 瞳 求 空 向 行

とめどないねがいから ひとつだけかなうのなら
止 処 願 一 叶

だれにもゆずりたくはない ゆめをつかみたいとおもうよ
誰 譲 夢 掴 思

とめどなくねがうほど わすれないでいたいこと
止 処 願 忘

ささえてくれるひとがいて ゆめをみることができるから
支 人 夢 見

こどものころのゆめは いろあせないらくがきで
子供 頃 夢 色褪 落書

おもうままかきすべらせて えがくみらいへとつながる
思 書 滑 描 未来